

もりおか

広報 2016

5月15日号 (No.1433)

◆主な内容◆ (平成28年5月15日号)

上下水道局の予算	2ページ
さんさ踊りの説明会や教室など、外山森林公園のイベント情報、公園活性化プランを募集、市立病院の予算各種講座情報	3ページ
健康ガイド、南部の湯っこ券2016、ユートランド姫神料金改定、市職員募集	4～5ページ
まちづくり懇談会	6～7ページ
	10ページ



昨年、犬の散歩をしながら「パトロール」も実施しています

昨今、子どもが交通事故や犯罪被害に遭う悲惨な事件が全国各地で後を絶ちません。県内でも平成27年中、中学生以下の子どもが関係した交通事故が151件、高校生以下の子どもに対する声かけ※などが322件発生しています (いずれも県警で認知した数)。

そうした中、地域で子どもを守ろうとする活動が市内各地で行われています。松園地区では、各小学校に約20人の見守り隊を結成。登下校の時間、市の交通指導員と共に通学路に立ち、交通事故や不審者などの危険から子どもたちを守っています。子どもに安心感・親近感を抱いてもらおうと、活動中は平仮名の名札を着用。非常時もサポートできるように、ばんそうこうや使い切りカイロを常備している隊員もいます。今では「○○さん、いつもありがとうございます」などと名前を呼んで声を掛けてくれる子どもたちが増えました。長年見守り活動をしている横山勝典さん(70)＝松園二＝も「朝の表情でその子の体調がある程度分かるようになった」と笑顔で話します。

松園地区防犯交通安全協議会副会長の南部宏さんは「子どもは地域の宝であり元気の源。地域全体で守り育てることは地域の活性化にもつながる。いつかは松園地区を離れる子もいるかもしれないが、『支え合って生きていくことの大切さ』はずっと忘れないでいてほしい」と話します。

不審者への抑止効果や交通安全対策だけでなく、地域を元気にし、人と人とのつながりを生み出す地域の見守り活動。子どもたちの笑顔と地域の絆を次代へつなぐ大切な役割を担っています。

※不審者が「声を掛ける」「近づく」「触れる」などをする事案

地域で守る、子どもたちの笑顔